

令和4年度 三島商工会議所 経営発達支援計画 評価会議 報告

1. 日 時 令和6年3月18日(月) 14:00~16:00
※事業継続力強化支援計画の評価会議も併せて実施した。
2. 場 所 三島商工会議所 4階会議室B
3. 評価委員 中山 勝 氏 (一般財団法人 企業経営研究所 常務理事)
(順不同) 寺田 敦 氏 (静岡県信用保証協会 沼津支店 保証第一課 課長補佐)
藤江 友彦 氏 (静岡県事業承継・引継ぎ支援センター サブマネージャー)
根津 勝人 氏 (根津勝人税理士事務所 所長)
玉置 久倫 氏 (中小企業診断士玉置事務所 所長)
4. 出席者 上記3. 評価委員5名
三島市より、山川 晃 氏 (産業文化部 商工観光課 課長)
三島商工会議所より、小島 信之(中小企業相談所 所長)、
市川 顕(中小企業相談所 所長)、宇水 淳(経営支援課 課長)、
麻谷 暢恵(経営支援課 主幹)、塩谷 洋司(経営支援課 主任) 計11名
5. 評価方法 事務局から令和4年度の三島商工会議所の経営発達支援計画の事業等の実施状況及び成果について説明をした。
その後、質疑応答を経て、各項目及び計画全体について、委員5名による評価を受けた。

6. 評価結果

(1) 評価基準

- A (4点): 目標を十分達成している(達成度: 100%)
- B (3点): 目標を概ね達成している(達成度: 80%~100%未満)
- C (2点): 目標を半分程度しか達成できていない、どちらかという達成できていない(達成度: 30%~80%未満)
- D (1点): 目標を全く達成できていない(達成度: 30%未満)

(2) 評価

【総合評価】 4. 0点 / 4点 (内訳: A評価 5名)

目標を概ね達成しており、課題認識、目標設定、支援内容、進捗管理いずれにおいても適切であるとの評価であった。特にコロナ禍における支援について、アウトプット(支援先数等)について目標値を大幅に超えていることにつき、高い評価を頂いた。

一方で、各委員から「支援成果についてのPRをもっと積極的に行うべき」「持続可能な伴走支援を行ってほしい」との声も頂いた。経営支援は経営指導員の質(能力)に依拠している点を指摘され、今後も経営指導員の資質向上・維持を図るよう促された。

また委員から「多数の支援先に対して、限られた支援人員で、どのようにフォローアップを展開していくか」「出口戦略をどのように考えているか」という質疑が寄せられた。「支援回数に縛られた画一的な支援ではなく、企業の実情に応じた支援を実施すると共に、成果が確認できた支援先には支援の区切りをつけることで、支援先数のコントロールを行っていく」との回答に対し、委員からも是非取り組んでもらい、商工会議所の支援の質の維持を図るようとの提言を頂いた。

【各項目の評価】

※「1.」は計画書では目標の記載

分類	項目	評価※	委員からのコメント
	2. 地域の経済動向調査に関すること	3.0	目標と同数の調査等を行っており、回数的には目標を達成しており、分析でもできている。 調査におけるDXの活用、調査資料の有効活用を図って欲しい。調査結果に対する反応やそれを踏まえた事業者の対応などが分かる取組を望む。

分類	項目	評価※	委員からのコメント
Ⅰ. 経営発達支援事業	3. 経営状況分析に関すること	3.8	<p>数値目標を大幅に上回っており、十分達成していると判断する。</p> <p>指導員の強みを活かし、SWOT分析などの定性的な分析に力を入れると事業者のためになる支援に繋がる。</p> <p>「事業承継診断」は「診断」して終わりにならないよう、その後の計画的な伴走支援につなげてほしい。</p>
	4. 事業計画策定支援に関すること	4.0	<p>目標回数は大幅にクリアしており、事業者に多大な貢献をしている。</p> <p>各支援先ごとに内容が異なっているため、過去の計画を含め簡潔に対応できるもの簡潔にするなどメリハリをつけた支援を心がけて欲しい。</p> <p>多くの事業所の計画を立てた後の、実績と計画の乖離に対するフォローアップが必要である。</p>
	5. 事業計画策定後の実施支援に関すること	4.0	<p>売上、粗利が増加しているため目標値を大幅に上回っている。フォローアップの効果が出ている。</p> <p>目標に対して実績数がかかなり多くなっているため、簡易的なフォローアップになっていないか？指導員に無理は出ていないか？</p>
	6. 需要動向調査に関すること	4.0	<p>展示会や商談会に限らず現実的な販路拡大の手段も検討してほしい。</p> <p>1社あたりのアンケート回収数が目標と実績が同数であるが、可能であれば目標達成後も回収して増加させたほうがリサーチとして良いのではないか。</p>
	7. 新たな需要の開拓に寄与する事業に関すること	3.8	<p>他の支援機関にはない差別化された支援である。</p> <p>売上だけでなく、利益に着目することも必要。</p> <p>今後の方策として、整合性のとれたマーケティングが行われているかチェックしてほしい。</p> <p>目標も実績も達成されているので、成功事例を共有したらどうか。</p>
Ⅱ. 地域活性化	8. 地域経済活性化に資する取組に関すること	4.0	<p>委員会を開催され活動もしている。中身の濃い委員会で様々なアイデアを出し合い、地域経済の活性化に寄与していくことを期待したい。</p> <p>今後はマーケティングの分析、セグメント分析、ターゲティングをすることにより効果的な取り組みを期待する。そのためにはデータ収集、分析などにより地域経済の見える化を行ってほしい。</p>
Ⅲ. 支援力向上	9. 他の支援機関との連携を通じた支援ノウハウ等の情報交換に関すること	3.8	<p>より多くの支援機関と情報交換をしてほしい。</p> <p>M-ステ会議等により情報共有されている。先日締結した「三島市事業承継推進事業協定」についても実際に活動に取り組んで欲しい。</p> <p>複数の支援機関同士の同行訪問なども積極的に行い、保有する情報と支援スキルを共有し、互いに切磋琢磨し合い、支援レベルを向上させていってほしい。</p>
	10. 経営指導員等の資質向上に関すること	4.0	<p>今後は資質が向上したか否かを明らかにし、不足している内容の確認をすることも必要である。</p> <p>なるべく全員の資質が平準化するよう研修等に注力してもらいたい。</p> <p>支援現場における実践的な支援ノウハウの取得を心がけて欲しい。</p>
	11. 事業の評価及び見直しをするための仕組みに関すること	4.0	<p>進捗状況が共有され評価会議で実績が評価されている。</p> <p>関係機関を巻き込み、適切にPDCAを回していると判断する。</p>

※評価の値は、各委員の評価点数の平均値（満点は4点）となる。なお、C以下の評価を付けた委員はいなかった。